



一宮町長
馬淵 昌也

日本社会の高齢化が話題になって久しいものがあります。特に地方では深刻で、高齢化率は軒並み30%を超えています。最近では、2040年というものも取りざたされています。2040年にはいわゆる団塊ジュニアの方々がすべて高齢者となるのだそうです。そこで高齢化による社会保障の負担が一層重くなるのではないかと、いわれているのです。

しかし、一方で、色々な集まりで地方の首長や学者の方々のご意見を伺っている、地方では、高齢化はさらに進むとしても、心配する必要はない、というご意見があります。すでに人口減と高齢化にさらされている地方では、実は高齢者の皆様が大変お元気で、医療費や介護関係支出も、安定して推移しているというのです。地方の高齢者の方々は、自立の精神に富んでおられ、生涯現役の気概で暮らしておられるので、今も心配ないし、将来も心配ない、というわけです。

そして、困るとすれば、東京など大都会でしょう、というのも皆さま一致した意見です。手厚い公的サービスが期待されるところに、サポートを必要とされる方が集まる、ということでしょう。

そこで、一宮町のことを考えてみると、わが町には、お元氣な先輩方が大勢いらっしやいます。つくも会は400名もの会員を擁するそうですが、郡市の高齢者スポーツ大会で17連覇の快挙を成し遂げておられます。シニアの皆様を中心とする文化活動も、各種工芸品の製作や芸能関係など大変活発で、文化祭や芸能音楽祭などでは、その作品・出し物の質と量に圧倒されます。日常的交通安全や防犯活動、またコミュニケーション活動においても、町の各地区で旺盛な活動を展開して下さっています。

一宮町の場合、高齢者の医療費や介護関連支出も伸びは鈍化しており、数字の面でも一宮のご年配の方々の力強さが裏打ちされています。介護保険では、新しい計画で、保険料の標準月額を近隣で唯一、100円値下げした実績もあります。

こうした中で、新元号公布の年を迎えてわたくしがお願したいのは、一宮町のシニアの皆様は、これからもパワフルにお過ごし頂きたいということです。笑顔のあふれる長生きのまち一宮を、さらに元気にするため、一緒に進んでまいりましょう！